

会 議 録

審議会等の会議を次のとおり開催しました。

【審議会等の名称】

令和7年度綾瀬市総合教育会議

【開催日時】

令和7年8月18日（月）午後1時30分～2時45分

【開催場所】

綾瀬市役所 事務棟6階 視聴覚室

【議題】

協議・調整事項
（1）教育大綱の改定について

【出席者】

（綾瀬市長）
橘川佳彦

（綾瀬市教育委員会）
（教育長）
袴田毅
（教育委員）
田中恵吾、亀ヶ谷由美子、齊藤隆訓、林紀美子

（関係者）
教育部長、学校教育課長、教育指導課長、教育研究所長、市民環境部長、生涯学習課長

（事務局）
経営企画部長、企画課長、教育総務課長 他3名

【傍聴者数】

0名

【問い合わせ先】

(担当) 企画課 政策経営担当

(電話番号) 0467-70-5635

(メールアドレス) wm.705635@city.ayase.kanagawa.jp

【内容】 ※要点筆記

○あいさつ

〔橘川市長（以下 市長）〕

〔袴田教育長（以下 教育長）〕

○協議・調整事項

（１）教育大綱の改定について

（市長）

基本的な考え方を説明させていただく。

現教育大綱が令和８年度末で、対象期間が終了とすることに伴い、改定を行うものである。

基本理念と目標については、明確な上下関係が発生するものではないため、大綱の核である基本理念のみの記載とした。

基本理念については、令和６年度の総合教育会議にて、社会を生き抜く力について多くの御意見をいただいたことから、現行の「自分らしく学び続ける」から、「社会を生き抜く力を育む」との表現に改めた。

次に、５つの方針について、「１ 自ら学ぶ力を育みます！」においては、自主性や想像力の要素を取り込み、「自発的に考え、行動する力」と記載した。

また、情報化社会への対応として、ＩＣＴスキルだけではなく、情報を適切に利用するための情報活用能力について追記した。

「２ 豊かな心と健やかな体を育みます！」においては、これまで「豊かな心」と「健やかな体」を別々の題目立てとしていたが、綾瀬市学校教育推進プランの基本方針において一体的に取り扱っていることから、教育大綱においても同様に統合して記載することとした。

また、社会を生き抜く力として必要となる基礎的な能力を養う効果があると考えられる体験活動について追加した。

さらに、昨年の会議で競争心について多くの御意見をいただいたこと等から、本気になって取り組む力について追加した。

「３ 個人の尊厳や人権を尊重した人格の形成を推進します！」においては、性別、障がいの有無、国籍など、一人ひとりが持っている個性を尊重する力を育むこととして、新しく追加した項目である。

「４ 教育環境を充実します！」においては、これまで記載があった教職員の教師力の向上については、教育環境の整備に含まれるものと考え、削除した。

「５ 家庭の教育力の充実を支援します！」においては、保護者の相談に対する機会の充実とともに、不登校や引きこもりに対する支援を追記した。

企画課長から教育大綱の改定内容の追加説明、教育総務課長よりこども基本法に規定されている当事者からの意見聴取として実施したアンケートの集計結果について説明。

(市長)

綾瀬市教育大綱の改定について、御質問や御意見があればお願いしたい。

(齊藤委員)

とてもわかりやすくなったと感じた。今までは考え方が中心だったが、今回改定されたことで、多くの関係者が動きやすくなるのではないかな。

また、中小企業にとっても社会とのつながりは重要であるので、この方針によってできることがかなり増えるのではないかなと思う。現行の教育大綱よりも具体的になっているので、わかりやすくなりとても良くなったと思う。

(田中委員)

「基本理念」と「目指す人間像」に絞ったことで大変わかりやすくなり、目指す方向性が明確になっている。さらに、社会を生き抜く力は、今後、子どもを含む市民の方に必要な力だと思う。子どもであろうが大人であろうが、これからの変化する時代を生き抜いていくためにはこのような力が必要だと思うので、このように明確になりとてもいいと思う。

現行の教育大綱は「基本理念」と「目標」というのが似ており、目指す方向性が少しわかりにくい部分があったので、今回このようなまとめをされたということでわかりやすくなり、納得ができるものだと感じた。

(亀ヶ谷委員)

「目指す人間像」の最初に「人を思いやり」とあるが、「人」に限定するわけではなく、動物や植物などの環境全てに対して思いやりの心を持ってほしいと私は思っている。もっと広く見てほしいので、人だけを対象にしないような記載にしてもらえたらもっといいのではないかな。

(市長)

こだわりがあって「人」としたわけではないという認識なので、引き続き皆さんと議論をしながら、書き方はまた話していきたい。

(林委員)

具体的に読めて想像がつくので、すごくわかりやすい文章だと思う。現行は、1文が長くて、色々なものが積み込んであったが、一つ一つがわかりやすくて良いと思う。

また、多文化共生に関する文章が入っているので、綾瀬市らしくとても良いと思う。

(教育長)

小中学生は言葉には出さなくても、職業など将来に対して相当の不安を感じていると思う。生成AIが普及してきている現代においては大人にも言えることである「社会を生き抜く力」。これは本当にわかりやすいと感じる。これからの教育大綱の理念としてすごく良いと思う。

そのほかにも、格差社会の中で苦しんでいる人たちも含めて、今回「多様性」という言葉も視点に入れたが、皆に「社会を生き抜く力」を身に付けてほしい。

い。

また、昔と比べて色々な体験・経験ができる機会も少なくなっている。だからこそ、何か仕掛けていかなければいけないと感じた。そういった意味で、基本理念としては良いと思う。

（市長）

子どもたちが不安を抱えている世の中というのは、やはり我々のせいなのだろうと思う。時代や世界の状況に関わらず、子どもたちが、将来に対して夢や希望を抱くというより、不安を感じてしまう世の中だということは、本当に改めてしっかり教育や人づくりというような大きな視点で見たときに、これからの子どもたちに時代を継いでいってもらう中では、将来に向けて今できることを進めていかなければならないと思った。

（田中委員）

5つの方針についても、とても明確になっており、非常にわかりやすくなっていると思う。その中でも、「2 豊かな心と健やかな体を育みます！」の上から4つ目「自己の目標達成や他者との競争など、本気になって取り組みます。」について、これはとてもすばらしいことだと受け止めた。先日、小学生の日常生活が描かれているドキュメンタリー映画を観に行ったが、その映画の中で、本気になって最後までやり遂げるような場面があり、非常に感動した。方針の中に「本気になって取り組む力」について明確に追記されている。これはすばらしい表現の仕方であり、これからの学校の中でも、こういうことを目指して取り組むことが非常に大事だと感じている。

あわせて、一人の子どもの努力だけではなく、担任の先生の励まし、支援、さらには、それを取り巻く友達、そのような関わりの中で本気で取り組むことができる。これこそが綾瀬市でも大事にしていきたい力だと感じている。

（市長）

令和6年度の総合教育会議の際にもお話があったと思うが、夢や希望を持つことがなかなか出来ない環境という中では、やることを見つけられないよりも、仮にうまくいかなかったとしてもやることを見つけそれに打ち込むことや、その努力をしたというものは、決して無駄にはならないと思っている。1人でも多くの子どもたちが、夢や目標を持って、本気で取り組むことができるような環境整備を進めていきたいと思っている。

（亀ヶ谷委員）

「1 自ら学ぶ力を育みます！」の最後の文章だが、先ほどお伝えした「人を思いやり」と同様に「人」に限らない文言に修正した方が良いと思う。

また、「3 個人の尊厳や人権を尊重した人格の形成を推進します！」の最後の文章で、「外国人市民も日本人市民も同じ場で教育を受け、」とあるが、分けて書いた方が差別化されているように受け取ってしまうので、分けない方が良いと思う。

最後に、「4 教育環境を充実します！」の最後の文章に、「想像力」について、この場所でなくても構わないので、どこかに入れていただきたい。

何をするにしても想像力が大事だと思うが、先に起こることを想像して行動すべきだと思う。落ち込んだときに私はいつも良いことを想像するようにしているが、私にとって想像力は自分を助けてくれる武器なので、子どもたちにも想像力を育んでほしい。今この5つの方針を読んだところ、想像力という言葉がどこにも入

っていなかったもので、ぜひ可能であれば、「想像力」をどこかに入れていただきたく思う。

（齊藤委員）

自分が教育委員会に関わっていく中で学ばせてもらったことが、ここにつながっていると感じる。これを延長していくと色々な変化が起きるのではないか、ということは改めて感じた。他市を見させていただき、体験や探究心などをどう広げていくか、ということがある程度イメージ出来た。今回このような文言を明確に出してもらったことはとても大きく感じている。教育委員会の方が関わってくれながら、9月の第1週で子どもの選挙など、地域の大人が頑張っているところを見ると、いま教育委員会の方たちが頑張ってくれていることが入っているということを改めて認識したので、本当にすばらしいものではないかと思う。

（教育長）

私は文言の修正とかではなく、教育委員会として少し不安に感じた点をお話させていたきたい。

橘川市長が特に力を入れていきたい部分でもあると思うが「2 豊かな心と健やかな体を育みます！」の3番目の「体験の機会の提供」と、先ほど田中職務代理が述べていた「本気になって取り組む力」について、これまでの学校では、そういった場面をつくる機会が多くあった。しかし、部活動の地域展開が進められ、地域の活動にもあるかもしれないが、やはり部活動はかなり高い目標を持った厳しい練習で、本気になって取り組んだ場面などがあるが、将来止まっていくのかなど不安を感じている。

さらに体験についても、体験を受け入れられるほど、学校としては授業日数の関係や行事の見直しなど、色々やりにくくなってきていることもあり、実際に体験の機会は少なくなっている。当然、今まで学校がやり過ぎていた部分もあるかもしれないが、社会あるいは家庭や地域などで補ってほしい。

そういった意味で、この方針を生かしてもらいたい。オープンファクトリーなどで綾瀬市内の工場との関係も構築されてきているのではないかと感じているので、決して教育委員会だけではなく地域全体で子どもたちに機会を与えていければと思う。

（市長）

「様々な体験をさせてあげたい」というところと、「本気になって取り組む力」は前回から特に大きく変化しているところだと思うが、「さまざまな体験」というのは「学校で色々な体験をさせてあげてほしい」という意味ではないつもりで記載している。年齢によっても異なると思うが、もっと単純なことで良いと思っている。例えば、現代の子どもたちで、素足で田んぼに入ったことがある子どもがどのくらいいるか、となったときに、田んぼの泥はどのように感じるのか、そこにアメンボなどの色々な虫がいて、お米はこうやって出来ていくんだ、などといった子どもの頃の体験は積み重なっていき、一人の人としての人格が広がっていく要素の一つになるのではないかと考えている。

何であっても、経験や体験と言われるものは、ないよりもあった方が良いものだと思う。何かしらしっかりとした環境をつくって、ということではなくても、地域や事業者の方たち、青少年健全育成会の皆さんも試行錯誤しながら色々なイベントをやっている。そういったところで一つでも多くの色々な体験をさせてあげたい。昔と比べていろいろなものがなくなってきて、道がすごく狭め

られてきている中では、今体験できることを少しでもさせてあげたい。このことは、教育や人間形成として、大切なものだと思っている。

また「本気になって取り組む」ということは部活動やスポーツだけではないと思っている。中学校3年間、本気で勉強に打ち込んだ子がいたとして、「もう二度とこんなに勉強することは一生ない」と思えるぐらいその子なりにやったとしたら、それは貴重なものである。それが、高校受験のためであっても良いと思うし、高校受験がうまくいかなかったとしても、「自分は心底勉強に打ち込んだ」という経験があったら、その先の人生においても、それは自信につながる一つの要素になりうるのではないか。そのためには、先ほど田中職務代理が言われたように、取り巻く先生だったり、友達の励ましなどはすごく大事だと思う。いろいろな意味で、本気になって打ち込む時間は、振り返ったときにも、充実した時間というふうに感じられると思うし、それが自分の自尊心につながり自信を持てる未来につながっていくのではないかとと思っている。

(田中委員)

ある企業と大学が10年間にわたって子どもたちの自己肯定感を調査したデータが先日公開された。それを見ると、小学校4年生ぐらいまでに様々なものに挑戦をした子どもは、高校3年生ぐらいになったときに、学力や自己肯定感が向上しているという結果があった。そういう意味では、学校だけではなく、家庭や地域で色々なものに挑戦できる場面を綾瀬市も考えていくべき。失敗や成功に関わらず、学校だけではなく、地域の企業や会社などと連携しながら、学校がない土日に様々な経験を積むなど考えていければいいのではないか。

(市長)

具体的なところは教育委員会だけでなく、市の子育て関係など色々な部署が連携して、そういった機会をつくれるようにしていけたらと思う。

(齊藤委員)

方針があることで関係者などに伝えられることは多くあり、自分自身も動きやすくなる。地域の方とのつながりについても、様々な仕掛け方ができると思う。教育長が述べていた学校での体験もあり、外での体験もある。まず大人が体験していく必要がある。大人が楽しまずに厳しいことばかり言っているようでは、子どもは未来に希望を持ってない。実際、海外の子どもたちは皆自分の未来は明るいと思っていない。アメリカは約7割が「自分の未来は明るい」と思っているが、日本は7割が「自分の未来は暗い」と思っている。これは国民性や考え方の違いもあるが、「子どもの可能性は無限大である」ということが伝えられるような大人になっていかないといけないので、この項目はとても大きいと思う。

(田中委員)

アンケートの集計結果について質問させていただきたい。中学校の保護者の回答率が他と比較して低いが、何か原因があるのか、分析はしているか。

(教育総務課長)

細かい分析等はしていないが、恐らく子どもが大きくなるにつれて、保護者の手が離れていくといったところが数字に現れているのではないかと感じている。

(田中委員)

「5 家庭の教育力の充実を支援します!」というような方針があったが、このようなアンケートの調査結果などにも現れてくると思うので、充実させていかなければならないと思った。

(市長)

それでは、この教育大綱案について、本日の御議論をいただいた内容、意見を踏まえて、必要な調整を加えさせていただきたい。委員の皆様には後日送付させていただき、公表していく。

以上で本日予定していた議事を終了することができた。委員の皆様の御協力に感謝する。

学校教育課長から業務量管理・健康確保措置実施計画について情報提供

以上